



刊行にあたって

わが国は世界に先駆けて少子超高齢社会に突入しています。従来から予測されていた問題、想定外の問題などが次々に生じ、今後も解決するべきさまざまな事象に向き合っていかなければなりません。

歯科衛生士に目を向けると、予防歯科の浸透によって以前よりも初診が低年齢化していることから、少子化にもかかわらず、子どもを診る機会が増えている歯科医院も多いようです。また、患者は着実に年齢を重ねていきますので、高齢者を診る機会が自然と増え、これまで長く担当してきた患者でも、いままでと異なる口腔状態やトラブルが次々に起こるでしょう。そのとき、患者個々の口腔の健康を守るためには画一的な対応では不十分であり、より多くの知識や情報が必要であると感じると思います。そんなとき、強い味方となるのが本書です。

各年代において、口腔の健康を脅かすリスクは異なります。まずはそれぞれのリスクを知り、それらに合わせた予防策を講じる必要があります。本書は、そのための知識や情報を収載し、さらに臨床の場で活用・実践することを趣旨としています。

このような切り口で編まれている本書は、さまざまな場で活躍する経験豊富な16名の“オトナ”歯科衛生士の方々に執筆いただいています。執筆者個々の創意工夫や経験にもとづいた独自の視点、そしてちょっとした“技”も散見され、奥の深い一冊になっています。

あらゆる患者の健康を守り育む歯科衛生士として長く輝き続け、充実した歯科衛生士人生を歩んでいくためのバイブルとして、ぜひ本書をご活用ください。

2017年9月

デンタルダイヤモンド社 編集部